

序章

スポーツとは

スポーツ基本法の前文において、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と示されています。

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養(かんよう)等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている。【スポーツ基本法 前文抜粋】

スポーツを取り巻く社会や環境の変化

◇国の動き

スポーツ基本法

スポーツを取り巻く社会環境が大きく変化したことをうけ、健康長寿社会や共生社会の実現など、ウェルビーイング(※1：以下 ※印 用語解説あり)といった多様な国民一人ひとりの生きがい及び幸福の実現を図るために、令和7(2025)年6月に「スポーツ基本法」が改正され、令和7(2025)年9月1日から施行されました。

スポーツ基本計画

文部科学省が策定した「第3期スポーツ基本計画」は、第2期計画期間中のスポーツ活動が制限された「新型コロナウィルス感染症」、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催、人口減少・少子高齢化の進行などの「社会状況の変化」等を通じて、改めて確認された「スポーツそのものが有する価値」と「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」を更に高めるため、令和4(2022)年3月に国等が取り組むべき施策や目標等を定めた計画として、策定されました。

◇千葉県の動き

千葉県体育・スポーツ推進計画

千葉県においては、スポーツの意義と価値を改めて実感し、前計画の成果と課題を踏まえるとともに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会をスポーツの力が一過性ではなく継続的に発揮される絶好の機会と捉え、「する・みる・ささえる」スポーツの推進、「知る」から広がる充実スポーツライフを基本理念として、令和4（2022）年3月に「第13次千葉県体育・スポーツ推進計画」を策定されました。

◇大網白里市の動き

大網白里市は、令和3（2021）年に「第6次総合計画」を策定し、引き続き「未来に向けて みんなでつくろう！ 住みたい・住み続けたいまち」を将来像に掲げ、総合的かつ計画的に行行政運営を進めています。

その中の第1章「まちづくり分野計画編」の第2節「教育・文化の充実」で、「将来を担う子どもたちを育み、生涯を通じて学ぶまち」を基本目標のひとつとして定められています。

総合計画において、生涯スポーツにおける課題として、「大網白里アリーナをはじめとした社会体育施設の適切な維持管理」、「年代に応じて誰もが楽しめる生涯スポーツ活動の普及」、「指導者の養成」、「スポーツを通した市民の健康・体力づくりの推進」をすることが挙げされました。

◇人口減少と少子高齢化の進展

人口減少と少子高齢化が進む日本において、近年の社会情勢の変化により、地域における人との関わりが薄れてきている中、スポーツは人と地域を結びつける大きな力となります。

ライフステージに応じた多様なスポーツを日常的に、また、幼児期からシニア世代まで継続的に行うことを推進し、心身の健康増進や生きがいに満ちた生活の実現が重要となっています。

◇新型コロナウィルス感染症が社会に与えた影響

令和2（2020）年1月からの新型コロナウィルス感染症は、日常生活に多大な影響を及ぼすとともに、スポーツ界にも様々な変化をもたらしました。

感染拡大防止のための緊急事態宣言の発令により、運動できる場所や運動することそのものにも制限が出され、学校の臨時休業等により部活動は休止となり、多くのスポーツイベントや各種大会の中止、スポーツ施設の休館を余儀なくされました。

自粛活動が続く中、運動不足が懸念され、運動やスポーツの必要性や重要性が再認識されるようになり、家の中で簡単にできるエクササイズがSNS等で話題となるなど、スポーツへの関わり方に変化が見られるようになりました。

第1章 計画策定の考え方

1-1 計画策定の趣旨

本市では、令和3（2021）年3月に「大網白里市第2次スポーツ推進計画」（以下、「前計画」という。）を策定し、“すべての人がスポーツでつながる 新たな時代のまちづくりにむけて”を基本理念とした運動・スポーツの推進を図つてきました。

しかしながら、前計画の策定以降、人口減少・少子高齢化の進行、ライフスタイルや働き方の多様化など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。

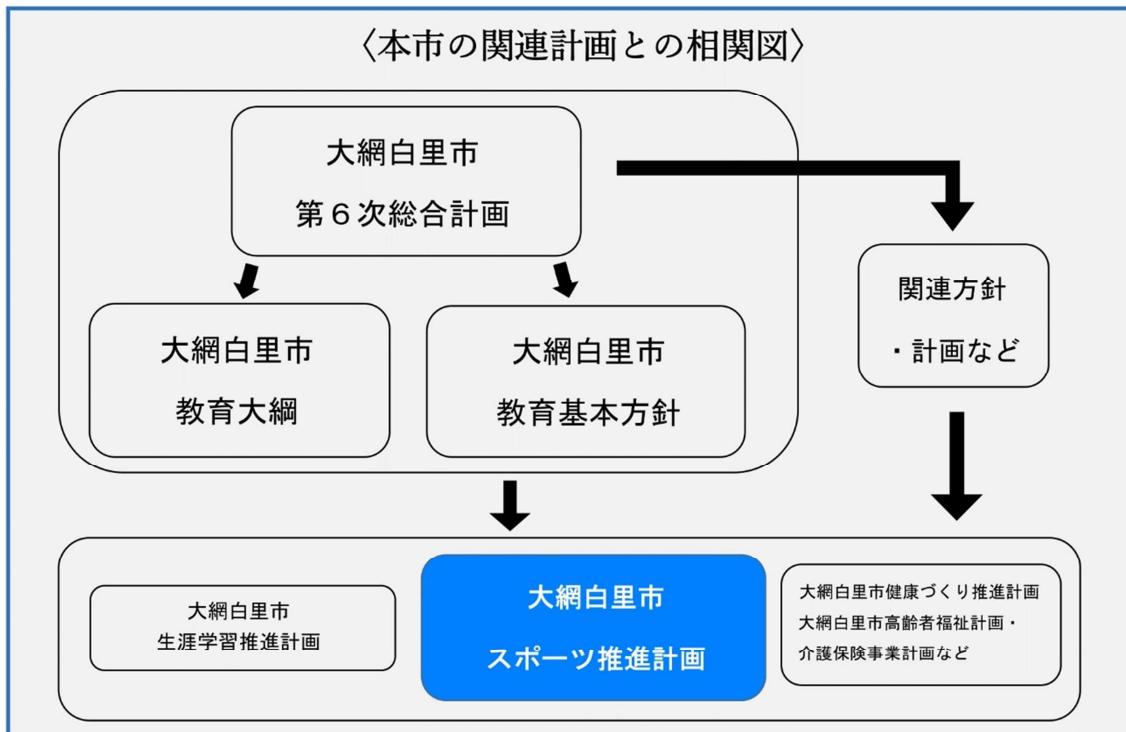
また、この間、国では、令和4（2022）年3月に「第3期スポーツ基本計画」を策定し、スポーツ基本法に基づき、東京オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策が示されました。

千葉県においても、令和4（2022）年3月に「第13次千葉県体育・スポーツ推進計画」を策定し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会をスポーツの力が一過性ではなく継続的に発揮される絶好の機会と捉え、「する・みる・ささえるスポーツ」のさらなる推進を目指すとしています。

本計画では、前計画における成果と課題を整理し、国や県の取り組みなどを踏まえ、本市の現状に即した計画を策定し、スポーツによるまちづくりを推進していきます。

1-2 計画の位置づけ

「大網白里市第3次スポーツ推進計画」は、国の「スポーツ基本計画」及び「千葉県体育・スポーツ推進計画」を参考（さんしやく）し、「大網白里市教育大綱」や「大網白里市第6次総合計画」、「大網白里市教育基本方針」との整合性を図るとともに、これらを補完する計画として位置づけ、関連する「大網白里市生涯学習推進計画」、「大網白里市健康づくり推進計画」、「大網白里市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」などの関連計画と連携を図り、スポーツの推進に関する基本的な計画として位置づけています。



1-3 計画期間

本計画の計画期間は、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間とします。

ただし、計画期間中に社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境の変化、関係する法令や制度の改正などがあった場合には、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

見直しにあたっては、スポーツ推進計画検討委員会及びスポーツ推進審議会での意見を踏まえながら、柔軟に対応します。

※写真

1-4 国における計画の施策体系

第3期スポーツ基本計画では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策が示されているとともに、①スポーツを「つくる／はぐくむ」、②スポーツで「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる、③スポーツに「誰もがアクセス」できる、の新たな3つの視点を支える具体的な施策が示されています。

I. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策

- ① 持続可能な国際競技力の向上
- ② 大規模大会の運営ノウハウの継承
- ③ 共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進
- ④ 地方創生・まちづくり
- ⑤ スポーツを通じた国際交流・協力
- ⑥ スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

II. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える 施策

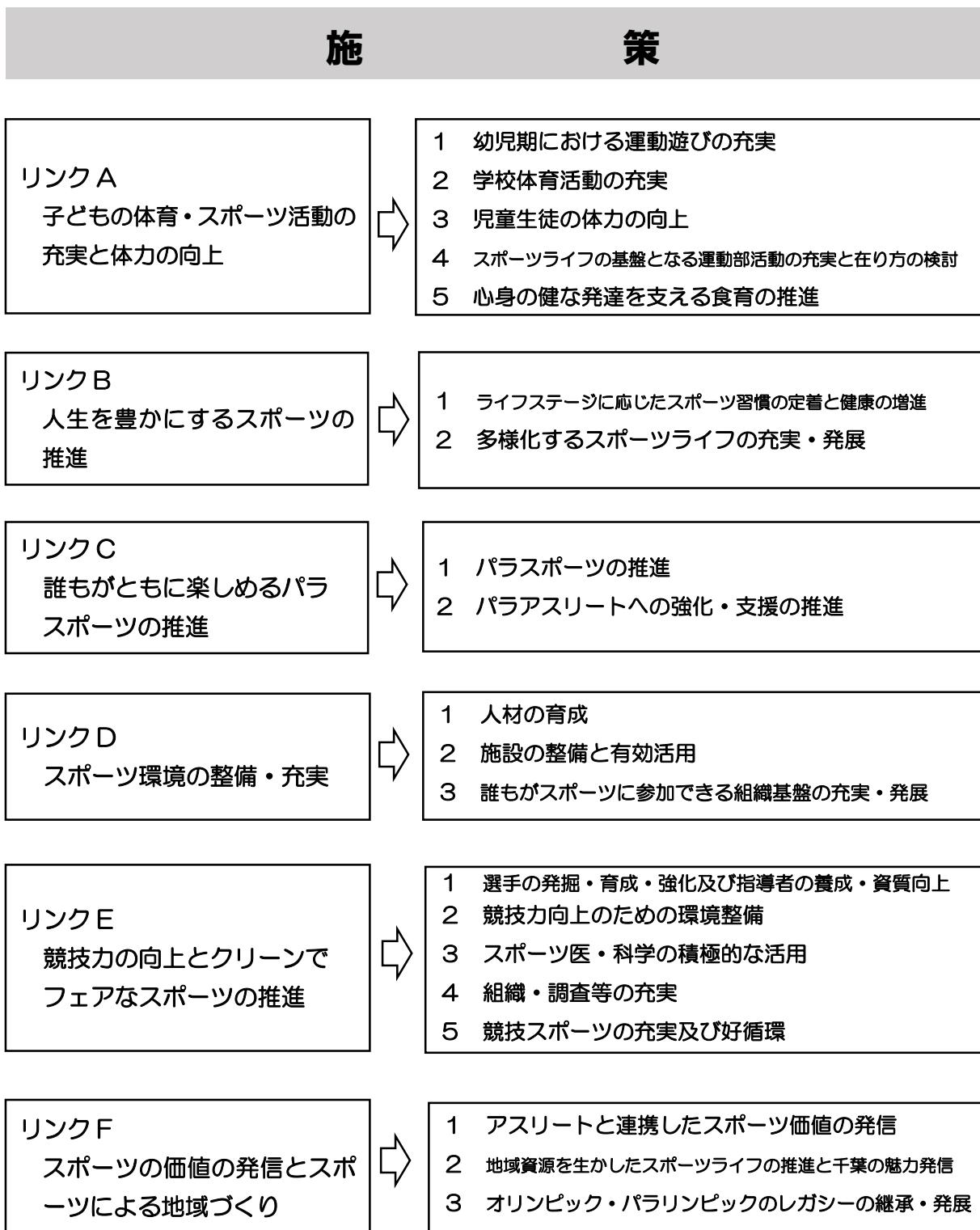
- ① スポーツを「つくる／はぐくむ」
 - ◇社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。
- ② スポーツで「あつまり、ともに、つながる」
 - ◇様々な立場・背景・特性を有した人、組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。
- ③ スポーツに「誰もがアクセスできる」
 - ◇性別や年齢、障がい、経済、地域事情等の違い等によって、スポーツの取り組みに差が生じない社会を実現し、機運を醸成する。

III. 今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組む 12 の施策

- ① 多様な主体におけるスポーツの機会創出
- ② スポーツ界における DX の推進
- ③ 国際競技力の向上
- ④ スポーツの国際交流・協力
- ⑤ スポーツによる健康増進
- ⑥ スポーツの成長産業化
- ⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり
- ⑧ スポーツを通じた共生社会の実現
- ⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
- ⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材
- ⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保
- ⑫ スポーツ・インテグリティの確保

1-5 千葉県における計画の施策体系

千葉県では、「する・みる・ささえる」スポーツのさらなる推進～「知る」から広がる充実スポーツライフ～を基本理念とし、実現に向けて6つの施策に各事業が整理されており、6つの施策は、全て同等に重要であり、独立して行われるものではなく、お互いに関連していることから第12次計画を継承し、各施策を「リンク」と表記しています。



1-6 本市における計画策定の体制

本計画の策定にあたっては、スポーツ推進計画検討委員会及びスポーツ推進審議会において、計画の方向性や具体的な取り組みなど、計画全般にわたる協議及び意見交換を行い、その結果を踏まえた素案について検討し、策定したものです。

また、市民及び小中学生を対象に「運動・スポーツに関する調査」を行いました。

スポーツ推進計画検討委員会

スポーツ推進計画検討委員会は、スポーツに関する学識経験者や関係行政機関の職員及び市の職員など、9名により構成されています。

スポーツ推進審議会

スポーツ推進審議会は、スポーツに関する学識経験者や関係行政機関の職員など、9名により構成されています。

1-7 アンケート調査

市民及び小中学生を対象に、スポーツに関する意識や行動について現状把握し、施策検討に活用するため、以下のとおりアンケート調査を実施しました。

運動・スポーツに関する市民調査（市民アンケート）

●調査概要

調査対象：満18歳以上の市民の中から、1,200人を無作為に抽出
調査期間：令和6年11月30日(土)～12月27日(金)
調査手法：郵送による配布、郵送またはオンラインによる回答
配布数：1,200
回収数：454
回収率：37.8%
内容：スポーツの現状やスポーツ施策に関する今後の意向など

運動・スポーツに関する小中学生調査（小中学生アンケート）

●調査概要

調査対象：市内の小学5年生・中学2年生
調査期間：令和6年11月30日(土)～12月27日(金)
調査手法：各学校に直接持参して回収
配布数：708
回収数：626
回収率：88.4%
内容：スポーツの現状やスポーツ施策に関する今後の意向など

《市民・小中学生アンケート結果の考察》

令和6（2024）年11月実施

対象者：成人1,200人、小中学生708人／回答数1,080人／回答率56.6%

成人男性・女性における運動習慣の状況は、「していない」が最も多く、次に「週1～2日」の回答となりました。「していない」の回答では、男性より女性の割合が高い傾向が見受けられます。【図1・2】

運動やスポーツをしない理由として、「仕事が忙しい」、「機会がない」、「身近に適当な施設がない」、「家事・育児が忙しい」、「好きでない」、「お金がかかる」などがあげられ、スポーツをしない又はできないことが、健康状態に不安を感じる又は運動不足だと思う大きな要因となっています。【図3・4】

中学生の運動習慣の状況は、「学校の部活」が43.8%と最も多く、「クラブチーム」、「スポーツ教室」、「友達との遊びの中」を合わせると88.2%が運動やスポーツをしている結果となりました。【図5】

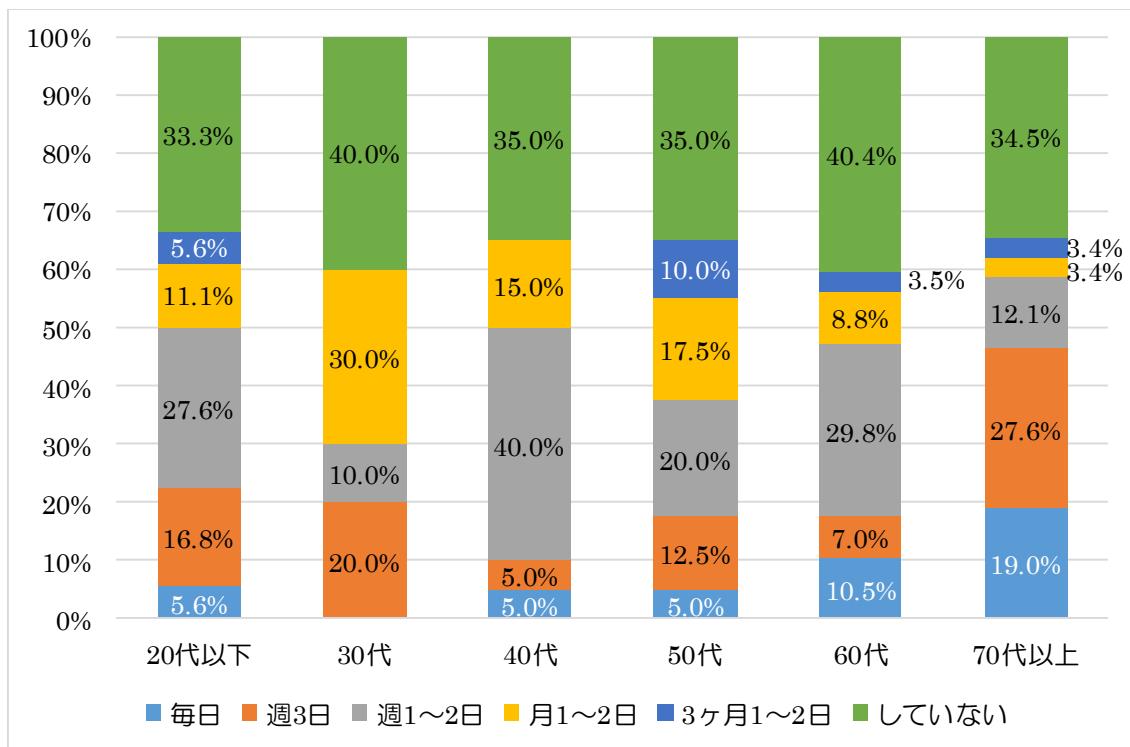
小学生の運動習慣の状況は、「友達との遊びの中」が36.3%と最も多く、「学校の部活」、「クラブチーム」、「スポーツ教室」を合わせると91.6%が運動やスポーツをしている結果となりました。【図6】

小中学生においては、運動習慣ができており、引き続き場所や機会を用意し、習慣の維持及び増加を図る必要があります。

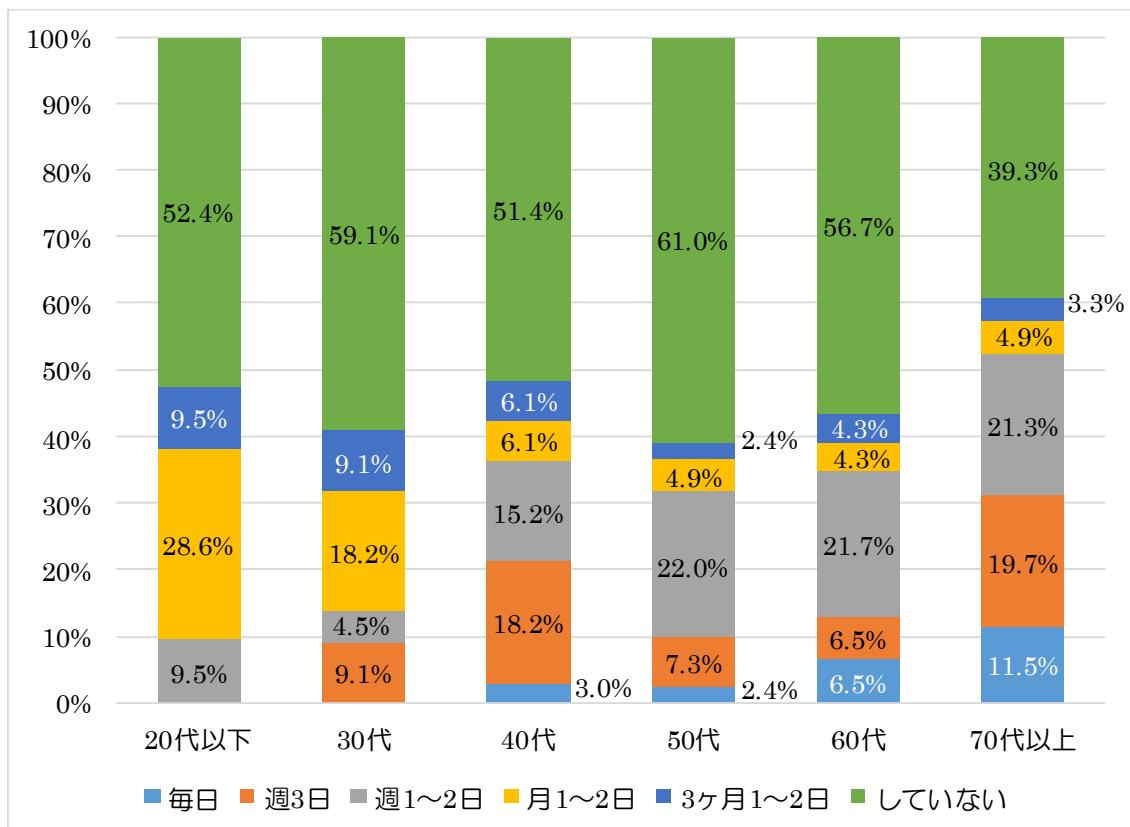
成人男性・女性において、今後どのくらいの頻度で運動したいかの回答は、「週1～2日」が最も多く、次に「週3日」となりました。時間や機会があれば、運動やスポーツをしたいと思っている方が多くみられることから、イベントなどの運動・スポーツを行うためのきっかけづくりが重要になってくると考えられます。【図7・8】

今回、新たに質問項目に追加したパラスポーツについて、成人の87.9%・小中学生の75.6%が体験したことないと回答しており、パラスポーツに関するイベントの実施や参加を促す必要があると考えられます。【図9】

【図1】普段どのくらい運動やスポーツをしていますか。(成人男性)



【図2】普段どのくらい運動やスポーツをしていますか。(成人女性)



【図3】運動やスポーツをしない理由は何ですか。(成人男性)

	今回調査 1位	2位	3位	前回調査 1位	2位	3位
20歳代	仕事が忙しい	健康上・身体上の理由	相手や仲間がいない	機会がない	仕事が忙しい	家事・育児が忙しい
30歳代	仕事が忙しい	好きでない	相手や仲間がいない	仕事が忙しい	相手や仲間がいない	お金がかかる
40歳代	仕事が忙しい	機会がない	家事・育児が忙しい	仕事が忙しい	お金がかかる	機会がない
50歳代	機会がない	仕事が忙しい	身近に適当な施設がない	仕事が忙しい	身近に適当な施設がない	年齢による体力の衰え
60歳代	仕事が忙しい	身近に適当な施設がない	健康上・身体上の理由	仕事が忙しい	機会がない	健康上・身体上の理由
70歳代以上	年齢による体力の衰え	健康上・身体上の理由	機会がない	健康上・身体上の理由	年齢による体力の衰え	機会がない

男性の『運動やスポーツをしない理由』として、「仕事が忙しい」「機会がない」「健康上・身体上の理由」が挙げられる。

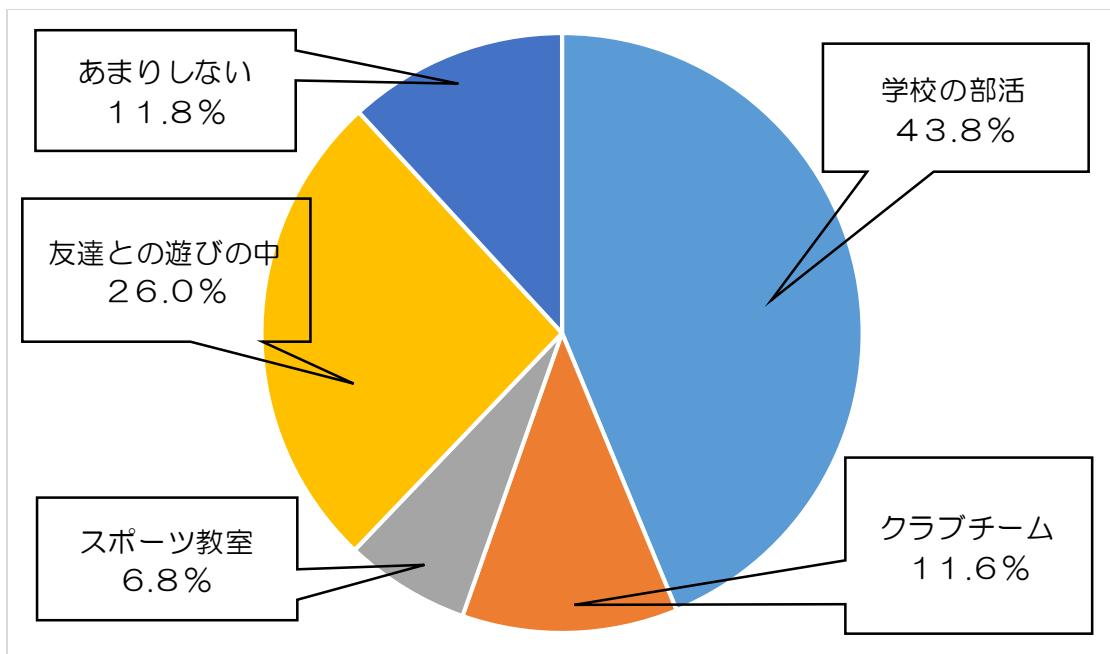
【図4】運動やスポーツをしない理由は何ですか。(成人女性)

	今回調査 1位	2位	3位	前回調査 1位	2位	3位
20歳代	身近に適当な施設がない	相手や仲間がいない	仕事が忙しい	仕事が忙しい	機会がない	お金がかかる
30歳代	家事・育児が忙しい	機会がない	仕事が忙しい	家事・育児が忙しい	仕事が忙しい	機会がない
40歳代	仕事が忙しい	家事・育児が忙しい	好きでない	仕事が忙しい	家事・育児が忙しい	機会がない
50歳代	仕事が忙しい	家事・育児が忙しい	機会がない	仕事が忙しい	家事・育児が忙しい	身近に適当な施設がない
60歳代	仕事が忙しい	機会がない	年齢による衰え	機会がない	仕事が忙しい	身近に適当な施設がない
70歳代以上	健康上・身体上の理由	仕事が忙しい	相手や仲間がいない	年齢による体力の衰え	健康上・身体上の理由	好きでない

女性の『運動やスポーツをしない理由』として、「仕事が忙しい」「機会がない」「家事・育児が忙しい」が挙げられる。

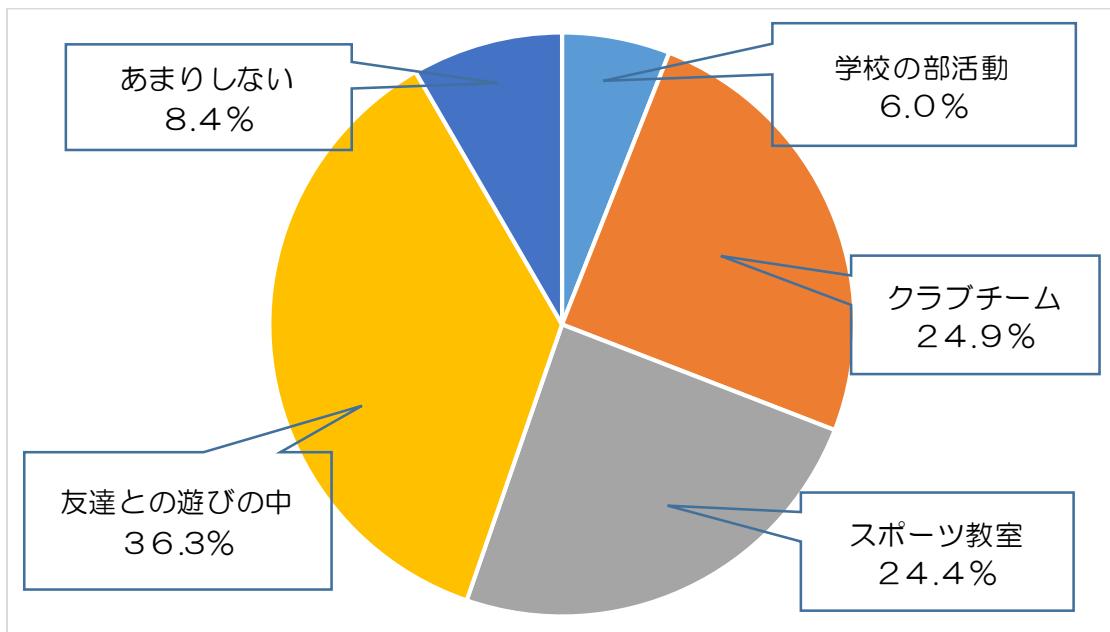
【図5】学校等で何か運動やスポーツをしていますか。

中学2年生

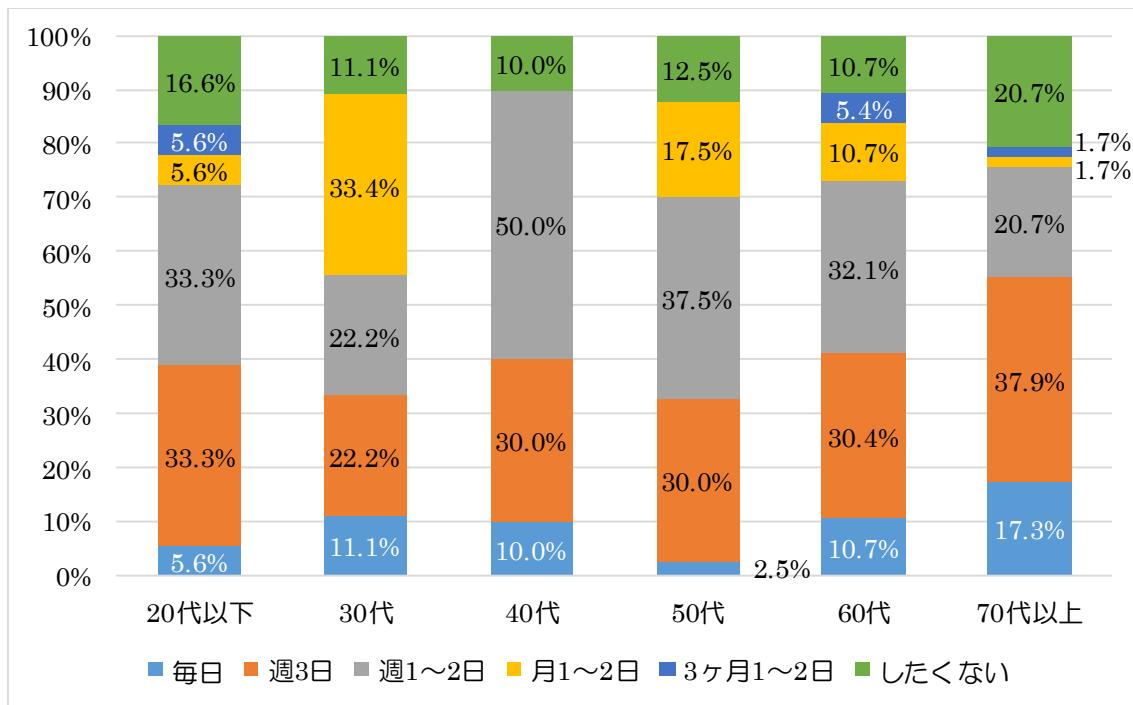


【図6】学校等で何か運動やスポーツをしていますか。

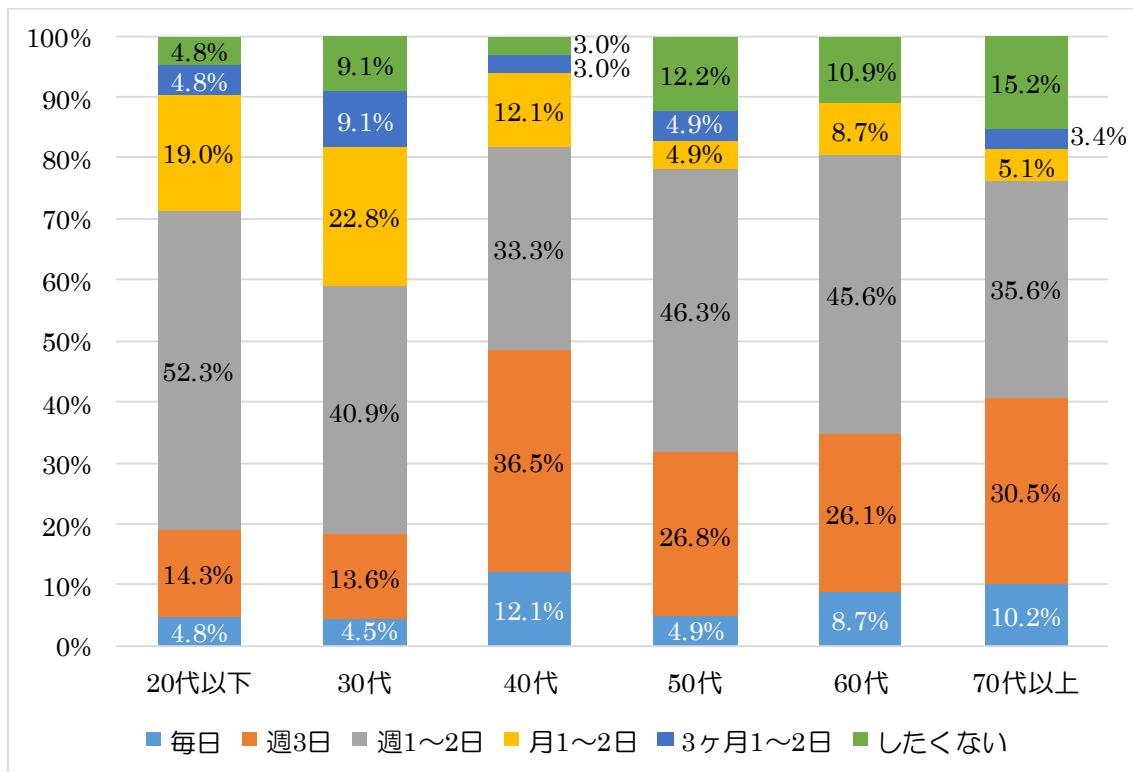
小学5年生



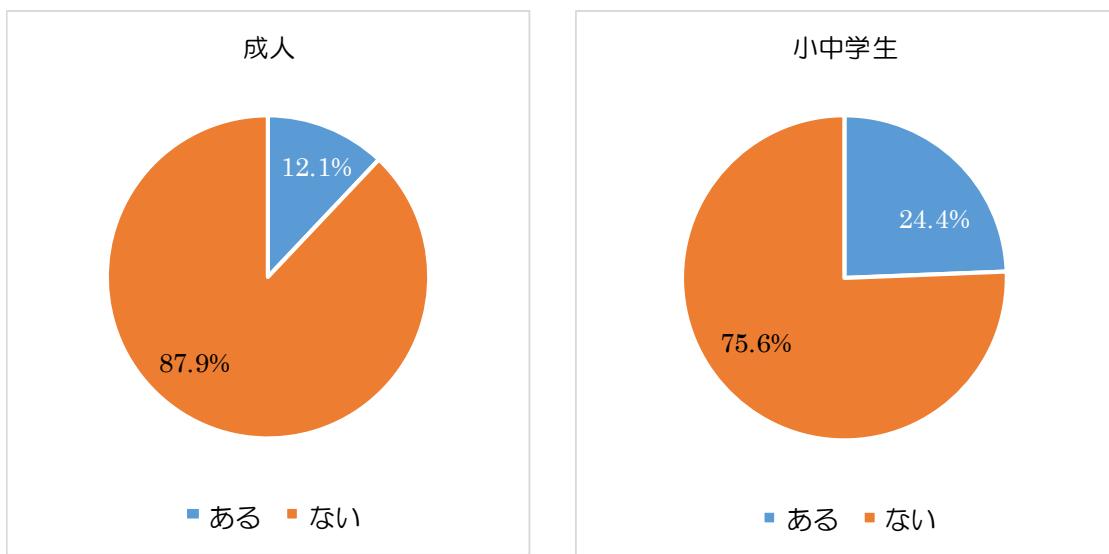
【図7】今後どのくらい運動したいですか。（成人男性）



【図8】今後どのくらい運動したいですか。（成人女性）



【図9】パラスポーツを体験したことありますか。



1-8 小中学校体力・運動能力調査結果

令和6年度における小中学生の「体力・運動能力調査結果」を基に、国・県と本市の平均値を比較してみます。

種目は、「握力」、「上体起こし」、「長座体前屈」、「反復横とび」、「シャトルラン」、「50m走」、「立ち幅跳び」、「ソフトボール投げ・ハンドボール投げ」の8種目です。

 … 国・県どちらの平均よりも高い数値
 … 国・県どちらの平均よりも低い数値

種目(単位)	小学校5年男子			小学校5年女子			中学校2年男子			中学校2年女子		
	全国	県	本市									
握力(kg)	16.09	17.25	17.79	15.99	17.11	17.07	29.46	29.69	29.53	23.58	23.63	23.14
上体起こし(回)	19.81	20.44	19.54	18.86	19.28	18.79	26.72	26.30	28.05	22.07	22.47	20.91
長座体前屈(cm)	33.41	34.96	34.01	38.34	40.02	37.37	45.21	46.58	48.83	46.46	48.14	48.40
反復横とび(回)	42.07	42.78	43.60	40.38	40.94	41.72	53.43	51.99	52.91	47.05	46.75	46.16
シャトルラン(回)	50.51	49.68	47.66	40.01	40.96	40.81	83.12	79.43	86.38	54.17	53.90	55.76
50m走(秒)	9.38	9.28	9.45	9.64	9.50	9.87	7.82	7.83	7.74	8.80	8.79	8.87
立ち幅跳び(cm)	154.01	155.48	152.81	145.38	148.27	147.21	203.20	199.51	208.64	172.38	169.41	172.08
※ ソフトボール投げ(m) ハンドボール投げ(m)	21.67	21.77	20.16	13.56	13.91	13.34	21.36	20.00	19.79	13.14	12.34	12.68

※小学生はソフトボール投げ、中学生はハンドボール投げを実施。

(参考) R6年本市の測定人数

小5男子 171名、小5女子 155名、中2男子 196名、中2女子 185名

1-9 スポーツをめぐる本市の課題

1 高齢化の進展に伴う、健康長寿社会の実現

健康で充実した人生を送りたいということは、多くの人にとって共通の願いです。人口減少・少子高齢化が進展している中で、人々が心身ともに健康で長生きできる社会の実現が求められています。

スポーツ・運動を行うことは、体力の維持向上につながり、生活習慣病の予防や介護予防にも効果があると言われています。さらには、人と人との交流も生まれ、健康づくりや仲間づくり、生きがいづくりを進めることにつながります。

2 子どもがスポーツに興味や関心を持ち、楽しみが感じられる取組

本市の小学生のスポーツ活動は、スポーツ少年団（※2）に加盟しているチームや地域のスポーツ経験者、あるいは保護者が指導者となって活動しているチームなどで社会体育活動を行っています。

中学生のスポーツ活動は、一部の種目を除き、主に学校における部活動として行われている状況ですが、今後、部活動の地域展開（※3）を図る必要があり、受け皿となるスポーツ団体の確保が求められています。

また、小中学生アンケートの結果において、「学校等で何か運動やスポーツをしていますか。」という質問に「あまりしない」と回答した割合が10%前後いるため、運動・スポーツを行うための取り組みと同時にスポーツに興味を持ってもらう取り組みが必要となっています。

3 スポーツによる地域の活性化

人口減少・少子高齢化が進み、社会情勢の変化等による地域コミュニティの希薄化が問題となっています。

スポーツによる様々な取り組みによって地域の活性化を図ることが求められています。

4 スポーツに関わる機運の醸成

オリンピック・パラリンピックなどを契機としたスポーツに対する関心の高まりを一過性のものにすることなく、子どもから高齢者まで、様々な形でスポーツに関わる機運の醸成を図り、これを維持していくことが必要となっています。

また、本市からは、国際大会やオリンピックにも出場するなど、世界の舞台で活躍するスポーツ選手が輩出されています。地元選手の活躍は、市民にとって誇りであり、その活躍によって勇気や感動を与えられることで、スポーツに関心を持ったり、参加する動機付けにもなります。市の活性化のため、トップアスリートとの交流機会の創出が求められています。

5 施設の老朽化対策及び熱中症・感染症予防対策

本市の社会体育施設等は、大網白里アリーナや市営野球場をはじめ、11施設を維持管理しており、多くの市民に身近なスポーツ施設として利用されています。大網白里アリーナには、トレーニング室も併設されており、開室から多くの方々が利用しています。

しかし、多くの施設は、老朽化が進行している状況であることから、令和5（2023）年4月に大網白里アリーナをはじめ、市内にある社会体育施設を含む「大網白里市社会教育・体育施設長寿命化計画」を策定しており、計画に基づき施設の改修等を実施しています。

高齢者や障がい者をはじめ、全ての利用者が安全で安心して利用するための環境の整備が必要となっており、さらには、年々、多様化・高度化するスポーツやレクリエーションのニーズへの対応も必要となっています。

また、前計画期間では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大網白里アリーナをはじめとした社会体育施設の利用制限やスポーツ協会が主催する新春マラソン大会等の中止など、市民がスポーツに関わる機会が制限される期間がありました。

今後は、この教訓を生かした感染症の予防対策や熱中症対策が重要となります。

スポーツ・運動においても、いのちと社会を守ることを最優先にした様々な対策や取り組みが必要となっています。

1-10 SDGs（持続可能な開発目標）

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能でより良い社会の実現に向けて、令和12年までの達成を目指す国際目標です。

これらの目標は国だけでなく、地方自治体が策定する各種計画においても、その理念を踏まえた取り組みの推進が求められています。

SDGsには全部で17の目標（下図参照）があり、本計画においては、特に「③すべての人に健康と福祉を」、「④質の高い教育をみんなに」、「⑪住み続けられるまちづくりを」、「⑰パートナーシップで目標を達成しよう」の4項目の達成に向けた貢献が期待されています。



1-1-1 計画における施策表現

本計画において、施策を表現している文章《施策の展開》の語尾表現では、次の考え方を基本に表記しています。

- ～推進します。～進めます。～図ります。～実施します。
⇒市行政が主体になって実施、取り組んでいくもの
- ～促進します。～支援します。
⇒具体的な実施主体は、市民や事業者となるが、実現に向けて市行政が支援し、呼びかけ、働きかけていくもの
- ～努めます。
⇒実施には時間がかかるが、市行政が主体となって実現に向けて継続的に取り組んでいくもの
- ～検討します。
⇒今後、実現に向けて実施主体や具体的な内容などについて協議・調整・検討を要するもの

第2章 計画の基本的な考え方

2-1 基本理念

将来を担う子どもたちを育み、生涯を通じて学ぶまち

～スポーツを「知る」からはじめ

生涯スポーツでウェルビーイングの実現へ～

大網白里市第6次総合計画において、めざすまちづくりの基本目標の一つに「将来を担う子どもたちを育み、生涯を通じて学ぶまち」を掲げています。

本計画においては、スポーツを知ることにより、「体を動かす楽しさ」や「できるようになる喜び」を知り、身体的・精神的・社会的に良い状態にあるウェルビーイングの実現に向けて、誰もが様々なかたちでスポーツに関わることができる環境づくりを基本理念とします。

基本理念である「～スポーツを「知る」からはじめ 生涯スポーツでウェルビーイングの実現へ～」を実現するため、5つの基本目標を策定し、それぞれ施策の展開を設定します。

※写真

2-2 基本目標

基本目標1 生涯スポーツの推進

ライフステージに応じたスポーツの推進や高齢化の進展に伴う健康長寿社会の実現に向けて、全ての世代において生涯スポーツを推進する取り組みを行います。

基本目標2 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上

子どもがスポーツ・運動に興味や関心を持ち、楽しみを感じられるための取り組みを行います。

基本目標3 スポーツによる地域の活性化

近年の社会情勢の変化により、地域における人との関わりが薄れています。中、スポーツによる地域コミュニティの活性化を図るための取り組みを行います。

基本目標4 スポーツ機運の醸成

オリンピック・パラリンピックや令和9年度全国高等学校総合体育大会の開催を契機としたスポーツへの関心の高まりを生かした様々な取り組みを行います。

基本目標5 安全なスポーツ環境の確保

スポーツを行う上で障害となるリスクを抑え、安全で安心した環境づくりに向けた取り組みを行います。

2-3 施策体系

基本理念	将来を担う子どもたちを育み、生涯を通じて学ぶまち ～スポーツを「知る」からはじめ 生涯スポーツでウェルビーイングの実現へ～
------	---

基本目標	施策の展開
------	-------

1 生涯スポーツの推進	(1)多くの市民のスポーツ参加
	(2)スポーツ活動の促進
	(3)高齢者のスポーツ・運動の推進
	(4)誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進
	(5)スポーツ教室、講習会の充実

2 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	(1)幼児期における運動遊びの充実と食育の推進
	(2)学校体育の充実
	(3)部活動の地域展開の推進

3 スポーツによる地域の活性化	(1)地域でのスポーツ活動の支援
	(2)スポーツ関係団体の連携強化
	(3)スポーツと観光の連携

4 スポーツ機運の醸成	(1)オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進
	(2)全国高等学校総合体育大会の開催

5 安全なスポーツ環境の確保	(1)スポーツ施設の老朽化対策と施設利用の促進
	(2)スポーツ指導者の育成

第3章 基本目標と施策の展開

3-1 具体的な施策

本市の生涯スポーツの推進のために以下の5つの基本目標に対し、具体的な施策を展開していきます。

基本目標1 生涯スポーツの推進

1-(1)多くの市民のスポーツ参加

年代・体力に応じたスポーツのニーズを把握し、普及促進を図ります。
スポーツ協会、スポーツ推進委員（※4）及びスポーツ少年団等各種団体と連携し、各種スポーツイベントを実施します。
デジタル博物館で公開されているウォーキングコースを周知し、気軽に参加できるスポーツ環境の整備に努めます。

《施策の展開》

- 若年層、特に子育て世代をターゲットとしたスポーツ教室の開催を検討します。
- 市民スポーツ大会及び新春マラソン大会の参加者数の拡大に努めます。
- スポーツ推進組織の機能分担に基づいて、スポーツ少年団等の育成を促進します。
- 軽スポーツ大会などのスポーツイベントを実施し、間近でスポーツの楽しさや魅力を感じてもらい、スポーツ参加へのきっかけづくりを図ります。
- 本市周辺地域と連携し、大会への支援・協力体制の充実に努めます。
- ウォーキングを実施している関係団体と連携し、魅力あるコースの発掘やイベントの開催に努めます。
- スポーツ推進委員等と連携して、軽スポーツ大会や講習会を開催し、参加を促すとともに参加者の交流の場の創出を図ります。
- 見学者にもスポーツの楽しさや魅力を感じてもらえる、「みるスポーツ」を推進するとともに、将来の目標や励みになるよう意欲の高揚を図ります。
- 市民のスポーツへの参加意欲を促進するため、市広報紙・ホームページをはじめ、SNS等を活用して、各種スポーツ大会等の情報提供の充実を図ります。

1－（2）スポーツ活動の促進

スポーツ習慣の定着と競技力の向上を図り、市民相互の交流の活性化を図ります。

《施策の展開》

- 競技力の向上や競技スポーツ人口の裾野の拡大を目指し、千葉県民スポーツ大会等に大網白里市を代表して出場する選手を支援します。
- 姉妹町である群馬県中之条町との継続したスポーツ交流を図ります。
- 観光協会や宿泊業者と連携を強化するとともに、SNS等を活用して市外からのスポーツ合宿利用者の増加を図ります。

1－（3）高齢者のスポーツ・運動の推進

関係部署と連携し、体力に合ったスポーツ・運動の普及を図ります。
健康増進につながる講演会の実施やスポーツ・健康に関する情報を提供します。

《施策の展開》

- 関係部署と連携して、いきいき元気クラブ、健康ポイント事業などを実施します。
- 老人クラブ等が行うグラウンドゴルフ、ゲートボール等の大会開催を支援します。
- 市民公開講座、健康づくり講演会などの情報を提供するとともに、市民の参加を促進します。
- ロコモティブシンドローム（※5）の予防のため、ロコモ体操（※6）のさらなる推進を図ります。

1－（4）誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進

パラスポーツを通じた共生社会へ向けての環境づくりを推進します。

《施策の展開》

- パラスポーツを通じた交流や共同学習を推進します。
- パラスポーツ指導員（※7）を養成するため、指導者講習会・研修会の開催に関する情報提供などを進めます。
- 社会福祉関係団体と連携し、様々なパラスポーツ大会への参加を支援します。
- パラスポーツ指導員との協働により、パラスポーツを推進します。
- 市広報紙やSNS等を通じて、パラスポーツの魅力発信を図ります。

1－（5）スポーツ教室、講習会の充実

既存のスポーツ教室や大会を充実させるとともに、新規のスポーツ教室の開講やニュースポーツ（※8）などの講習会の開催を検討します。

各種競技のトップアスリートを招き、小中学生を対象にしたスポーツ教室などを開催し、競技力の向上を目指します。

《施策の展開》

- 「剣道」、「柔道」、「卓球」、「バレーボール」、「弓道」、「バドミントン」、「スローエアロビック」、「かけっこ」などの教室を開催します。気軽に参加できる運動教室など、新たなスポーツ教室の開催について検討します。
- トップアスリートや近隣の大学等の学生・指導者との交流の場を設け、スポーツ意欲や競技力の向上を図ります。
- トップレベルの競技や試合を観戦する機会の場や情報を提供します。

基本目標2 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上

2-(1) 幼児期における運動遊びの充実と食育の推進

楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。体力と競技力の向上には、正しい生活習慣と食習慣による体づくりが必要です。

食育は、生きる上での基本であって、知育、德育及び体育の基礎となるべきものと位置づけ、「食」に関する知識と「食」を選択する力の習得による健全な食生活の実践を目指します。

《施策の展開》

- 幼児期においては、幼稚園、保育施設、家庭における屋外での遊びを推奨し、遊びの中で体を動かす習慣づけを進めます。
- 幼児教育アドバイザーを活用した研修の推進を図ります。
- 学校給食の安全確保・充実を図るとともに、地産地消の推進、食に関する指導の充実など、食育活動の推進体制の強化により、食からの健康づくりの啓発に努めます。
- 講演会や学習会を通じて、家庭での食生活や基本的生活習慣の改善を促進します。
- 日常生活において、朝食を摂ることが重要となるため、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣の推進に努めます。

2-(2) 学校体育の充実

学校における体育に関する活動は、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための基礎となるものです。体育科・保健体育科の授業、運動部活動などを通じて、子どもたちが身体を動かすことの楽しさやスポーツをする喜びを感じ、スポーツを好きになり、積極的にスポーツに取り組む姿勢を育てていきます。

《施策の展開》

- 体育科・保健体育科の授業の充実を目指します。
- 児童・生徒の体力の向上に努めるとともに、運動の習慣化を推進します。
- 運動に親しむ資質や能力の育成と向上を図ります。
- 「遊・友スポーツチャレンジちば」(※9)などを推進し、児童・生徒の体力や健康の保持増進を図ります。

2-（3）部活動の地域展開の推進

部活動の地域展開の背景には、加速する少子化と教職員の働き方改革が挙げられ、少子化により単独でチームを組めなかったり、廃部せざるを得なかったりしている学校が出てきています。生徒にとっても持続可能なスポーツ活動のための環境づくりを進めます。

《施策の展開》

- 部活動の地域展開については、大網白里市地域部活動推進計画に基づき、地域の実情やニーズに応じたスポーツ環境を整備します。
- 部活動の地域展開にあたり、受け皿となる地域クラブの確保に努めます。
- 生徒を教育するという観点をもつために、外部指導者や部活動指導員等を対象とした研修会を実施し、外部指導者等の資質の向上を図ります。
- 休日の地域展開の実施後、段階的に平日の部活動の地域展開を進めます。

基本目標3 スポーツによる地域の活性化

3-（1）地域でのスポーツ活動の支援

市民にとって、身近な場所（地域）でのスポーツ・運動を支援するため、各地域におけるスポーツイベント等の企画・運営を行う人材の発掘と育成に努めます。

《施策の展開》

- スポーツ推進委員や地域のスポーツ団体と情報共有し、スポーツ活動を支援するボランティアの養成に努めます。
- 県などと連携し、各地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を支援します。
- 指導者の安全講習を実施し、スポーツの安全性の確保並びにコーチング技術の向上に努めます。

3-（2）スポーツ関係団体の連携強化

スポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団などの各種団体と連携を強化し、スポーツの普及振興を図ります。

地域間交流などによるスポーツを通じた相互交流を推進します。

《施策の展開》

- スポーツ協会が実施する市民スポーツ大会やマラソン大会の開催の補助を行うとともに、各団体の主催イベント開催に際して人的支援の充実を図ります。
- スポーツ関係団体の活動基盤の充実を支援します。
- スポーツ少年団の組織拡大を図るとともに、総合型地域スポーツクラブ（※10）の導入について検討します。

3-（3）スポーツと観光の連携

本市の観光資源を活用して、スポーツと観光を連携させ、本市の魅力向上に努めます。

《施策の展開》

- 白里海岸を活用し、マリンスポーツ大会の誘致や開催支援を通じて、観光や交流人口の拡大を図ります。
- 観光協会と連携し、SNS 等により本市の魅力を発信するなど、スポーツツーリズムの推進や市外からのスポーツ合宿利用者の増加を図ります。

基本目標4 スポーツ機運の醸成

4-（1）オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

オリンピック・パラリンピックを契機とし、市民のスポーツの関心を高め、健康新づくりの意識の高揚を図り、体力・運動能力の向上につなげていきます。

《施策の展開》

- トップアスリートによる講演会等の開催について検討します。
- 市内の地区単位によるスポーツ大会の開催などについて支援します。

4-（2）全国高等学校総合体育大会（通称：インターハイ）の開催

令和9（2027）年に開催されるバレーボール競技（大網白里アリーナ）の開催を契機とし、スポーツの魅力を伝えるとともに、本市の魅力を発信し、地域の活性化を図ります。

《施策の展開》

- 全国高等学校総合体育大会（通称：インターハイ）の開催に向け、広報啓発に努めるとともに、市民の機運醸成などを図ります。
- おもてなしの精神で選手・関係者等を出迎え、確実な大会運営を行います。
- 教育の一環として、高校生ボランティアが大会を「ささえる」立場として積極的に携わることで、豊かな人間関係を築くとともに感動や達成感を味わうことができる活動を推進します。

基本目標5 安全なスポーツ環境の確保

5-（1）スポーツ施設の老朽化対策と施設利用の促進

スポーツ施設の老朽化に対応するとともに、安心・安全かつ使いやすい施設利用の促進を図ります。

感染症予防対策や熱中症に関する情報提供を行います。

《施策の展開》

- 社会教育・体育施設長寿命化計画に基づき、計画的にスポーツ施設の改修を進めます。
- 社会体育施設利用者の利便性を図るため、施設予約システムを導入します。
- 民間事業者による管理・運営により、きめ細やかなサービスの提供と効率的な施設の維持管理を行うため、指定管理者制度の導入を検討します。
- 学校開放も含めた学校体育施設の適切な管理運営を進めます。
- 市民が利用しやすい施設となるよう必要に応じて、社会体育施設の利用時間や使用料の見直しを図ります。
- 令和7（2025）年8月に新たに導入した、券売機のキャッシュレス化を周知し利用率の向上に努めます。
- 熱中症及び感染症予防対策等について、情報収集を行うとともに、市広報紙やSNS等を通じて、情報提供の充実を図ります。

5-（2）スポーツ指導者の育成

市民の健康意識の高まりや多様化する市民ニーズに対応するため、各スポーツ団体等と協力し、専門的な知識を有するスポーツ指導者数の増加を図ります。

《施策の展開》

- スポーツ指導者の資格取得を支援し、指導者の育成に努めます。
- 各競技スポーツ指導者の技術や資質の向上を図るため、研修会等の情報を提供するとともに、参加を促進します。

3-2 数値目標

基本目標1

成人の運動習慣（週1～2日以上）

41.0%（令和6年度アンケート調査） ⇒ 50.0%（令和12年度）

市民スポーツ大会参加者数

1,686人（令和6年度実績） ⇒ 1,900人（令和12年度）

新春マラソン大会参加者

655人（令和6年度実績） ⇒ 800人（令和12年度）

スポーツ教室受講者数（登録者数）

208人（令和6年度実績） ⇒ 300人（令和12年度）

スポーツ教室数

8教室（令和6年度実績） ⇒ 10教室（令和12年度）

基本目標2

受け皿となる地域クラブの確保数

0組織（令和6年実績） ⇒ 5組織（令和12年度）

基本目標3

スポーツ少年団の組織数

6組織（令和6年度実績） ⇒ 8組織（令和12年度）

基本目標4

トップアスリートによる講演会等の開催

1回（令和6年度実績） ⇒ 2回以上の開催（令和12年度）

基本目標5

社会体育施設の利用者数

201,235人（令和6年度実績）

⇒ 212,000人（令和12年度）

第4章 計画の進め方

4-1 計画の推進体制

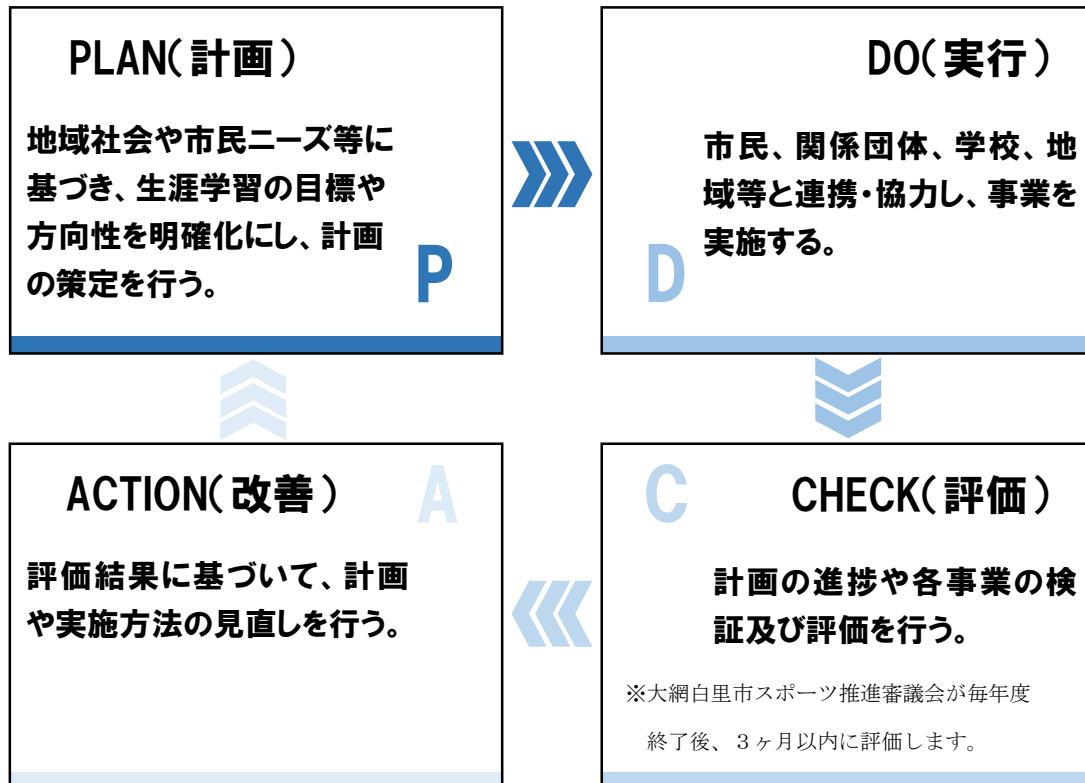
本計画の推進にあたっては、市民、スポーツ団体、学校などと、行政が協働し、各主体がそれぞれの役割を認識した上で、本計画に掲げる施策や事業に着実に取り組んでいきます。

4-2 計画の進行管理

本計画の進行管理では、各施策に紐づく事業等の進捗・実施状況について、定期的に確認・点検を行い、必要に応じて改善していくことが重要です。

本計画(PLAN)は、専門的な知見に基づいて実行し(DO)、その成果を検証・評価します(CHECK)。

さらに、評価結果を踏まえて事業や計画の見直し(ACTION)や新たな方針の策定を行い(PLAN)、PDCAサイクルによる効果的かつ継続的な運営を図っていきます。



用語解説

※1 ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものであることです。

※2 スポーツ少年団

1964年に（公財）日本体育協会が創設した歴史あるスポーツクラブで、それぞれが、独自に自主的に主体性をもった活動を展開しています。特定のスポーツ種目のみの活動を行うのではなく、野外活動や文化・学習活動など、少年期に必要な幅広い活動を行っています。

※3 部活動の地域展開

中学生にとって持続可能なスポーツ・文化芸術活動のための環境を整えるため、これまで学校が主体となってきた部活動を新たに地域が主体となって行うこと。

※4 スポーツ推進委員

教育委員会から委嘱され、市町村におけるスポーツの推進のための事業実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技指導その他スポーツに関する指導及び助言を行います。（スポーツ基本法第32条第2項）

※5 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）

骨、関節、筋肉などの運動器の働きが衰えることによって、寝たきりになる危険性の高い状態のこと。

※6 ロコモ体操

骨や関節、筋肉、神経など体を動かす組織すべてを指す「運動器の」という意味の「ロコモティブ」。50歳以降に運動器の障害が多くなることから、無理なく、楽しく予防できるよう工夫した「ロコモ体操」が全国各地で生まれています。

※7 パラスポーツ指導員

公認パラスポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者で、パラスポーツのスポーツ環境を整備するうえで専門的な知識、技術を有する人材。

※8 ニュースポーツ

技術やルールが比較的簡単で、だれでも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的として、新しく考案されたり、紹介されたりしたスポーツ。一般的に、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として楽しむことを主眼とした身体運動をいいます。

※9 遊・友スポーツチャレンジしば

千葉県の児童生徒の体力向上を図るために、各学校の実態に応じて授業や業間・昼休みの時間帯に児童生徒が取り組める運動種目を紹介し、積極的に外遊びや運動を奨励します。また、仲間と楽しく集団で協力し合いながら運動に取り組むことにより、好ましい人間関係や社会性を育成するとともに、記録（ランキング）を公表することにより、活動の意欲化と継続性を図ります。

10 総合型地域スポーツクラブ

地域住民が自主的に運営するスポーツクラブの形態で、特徴は次のとおりです。

- 単一のスポーツ種目だけでなく、複数の種目が用意されている。
- 障がい者を含み子どもからお年寄りまで、また、初心者からトップレベルの競技者まで、地域の誰もが年齢、興味・関心、体力、技術・技能レベルなどに応じて活動できる。
- 活動の拠点となるスポーツ施設（市の施設や学校体育館なども含む）を持ち、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。
- 質の高い指導者がいて、個々のスポーツニーズに応じた指導が行われる。
- スポーツ活動だけでなく、文化的活動も準備されている。

資料編

1 市民スポーツ大会種目・参加者数（役員も含む）

(単位：人)

種 目	対 象	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
ソフトテニス	中学生・一般	45	92	0
バレーボール	一般	80	150	110
バスケットボール	一般	100	130	146
ミニバスケットボール	小学生	120	163	0
卓球	小・中・一般	157	181	242
バドミントン	小・中・一般	129	214	287
軟式野球	一般	320	301	260
柔道	小・中・一般	57	40	35
剣道	小・中・一般	45	43	37
ソフトボール	一般	47	90	75
クレー射撃	一般	24	20	21
アマチュアゴルフ	一般	0	94	81
弓道	一般	20	72	72
サッカー	一般	41	100	45
少年サッカー	小学生	90	125	60
テニス	一般	151	78	112
ゲートボール	一般	20	18	15
グラウンドゴルフ	一般	97	95	88
ペタンク	一般	42	0	0
合 計		1,585	2,006	1,686

2 新春マラソン大会 参加者数

(単位：人)

種 目	種　目　名	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
1	中学生女子	43	37	30
2	中学生男子	37	54	53
3	40歳以上男子	8	30	38
4	高校・一般女子	9	30	19
5	50歳以上男子	11	16	18
6	65歳以上男子	7	7	10
7	高校・一般男子	39	58	51
8	小学1年女子	16	21	17
9	小学1年男子	44	33	26
10	小学2年女子	16	19	30
11	小学2年男子	51	46	40
12	小学3年女子	12	22	24
13	小学3年男子	41	45	41
14	小学4年女子	30	15	23
15	小学4年男子	41	36	48
16	小学5年女子	19	26	20
17	小学5年男子	34	31	28
18	小学6年女子	13	21	11
19	小学6年男子	22	34	24
20	ファミリー	-	104	104
合　計		493	685	655

3 スポーツ教室種目・申込人数

(単位：人)

種 目	対 象	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
柔 道	小・中学生	22	34	19
剣 道	小・中学生	28	21	19
卓 球	小学生以上	51	40	48
弓 道	中学生以上	24	23	17
バレー ボール	小・中学生	30	35	38
スローエアロビック	18 歳以上	24	25	25
バドミントン	18 歳以上	27	25	26
かけっこ	小学1～ 小学3年生	23	18	16
合 計		229	221	208

4 山武郡市民スポーツ大会結果

大会回数	年度	優 勝	準優勝	3位	本市優勝 種目数
第71回	R2	新型コロナウイルス感染症の影響により中止			
第72回	R3				
第73回	R4				
第74回	R5	大網白里市	東金市	山武市	9種目
第75回	R6	東金市	大網白里市	横芝光町	7種目

5 学校開放利用団体数等

(単位：団体、人)

学校名	令和4 (2022) 年度		令和5 (2023) 年度		令和6 (2024) 年度	
	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
大網中	9	162	11	219	6	157
増穂中	10	209	11	176	11	224
白里中	7	261	6	358	7	466
季美の森小	8	273	6	201	7	237
大網小	13	485	13	452	13	381
大網東小	8	147	6	132	6	108
瑞穂小	11	331	11	385	13	429
増穂北小	12	212	13	268	8	151
増穂小	12	215	12	255	9	199
白里小	9	163	7	136	6	113
合 計	99	2,458	96	2,582	86	2,465

6 社会体育施設利用状況

(単位：人)

施 設 名	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
大網白里アリーナ	104,372	105,201	110,886
大網白里アリーナ トレーニング室	13,058	16,169	16,812
市営野球場	2,948	3,794	3,317
市営テニスコート	6,280	6,215	7,432
白里地区スポーツセンター	20,141	19,986	20,350
柔剣道場	8,984	9,457	11,253
駒込広場	2,546	2,843	338
運動広場	11,626	27,666	14,730
市営サッカー場	5,458	5,553	6,509
季美の森多目的広場	3,670	4,399	4,841
ゲートボール場	95	0	43
ペタンク場	1,070	2,156	1,060
弓道場	3,353	3,482	3,664
合 計	183,601	206,921	201,235

※「大網白里アリーナ」の利用人数は、研修室・談話室・会議室・舞台・楽屋を含む。